荒尾市民病院
地域医療連携だより
市民を愛する　市民に愛される　病院へ
小岱
第44号（2022年1月発行）
地域医療支援病院　地域がん診療連携拠点病院　臨床研修病院（基幹型・協力型）
脳卒中急性期拠点医療機関/回復期医療機関
心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院/回復期医療機関　災害拠点病院
日本医療機能評価機構認定病院　第2種感染症指定医療機関　地域周産期中核病院

新年のご挨拶

病院事業管理者　大嶋　壽海

あけましておめでとうございます。心から新年のお慶びを申し上げます。

令和2年初頭から新型コロナウイルス感染症が世界を席巻しています。アルファ株、ベーター株、イプシロン株、デルタ株、オミクロン株と次から次へと変幻自在に変異を繰り返し、波状的に人類に襲いかかってきています。令和3年末時点で、世界での感染者は2億7千万人、死者は5百万人を超えています。一方、国内の感染者は約173万人、死者は約1万8千人です。東京2020オリンピック開幕直後よりデルタ株感染が急拡大し、8/26には、26,050人と過去最大となっています。以後、感染者数が激減し、10/17には500人を割り、10/23以降は300人以下となりました。日本の激減の要因として、2度のワクチン接種率が77.5%とG7内では最高となっていることや日本人のマスク着用率の高さ、手指消毒の徹底などの衛生観念が高いことではないかと言われていますが、専門家でも判然としないようです。現在、欧州各国や米国の新規感染者は感染力の強いオミクロン株で大半を占めています。日本はオミクロン株に対し空港での水際対策で対応し、市中感染をできるだけ遅らせ、その間に3度目のワクチン接種（ブースター）を進めていく方針です。また、経口治療薬はオミクロン株に効くと言われ、12/24には米国メルク社のモルピラビルが国内で初めて承認されました。また、いくつかの新薬が年末・年始早々に承認されそうです。

本年の年末年始期間中12/31～1/3の間、救急外来、一般外来（内科系・外科系）に分けて体制を準備していました。一般外来診察は21～49人／日、救急は13～34人／日と救急車は55台（3～13台／日、9.17台／日）で前年度を上回っており、比較的忙しい年末年始でした。新型コロナウイルス感染症に対するPCR検査は、陽性者はありませんでしたが、行政依頼分も含め85件の検査を行いました。荒尾市でも3回目のコロナワクチン接種は、医療従事者が12月から始まり、一部の高齢者を2月から接種、以後できるだけ早めに接種を行う準備中です。新型コロナ感染症の早い終焉を希望してやみません。

さて、本年は何と言っても新病院建築が最大の課題です。昨年4月3日に新病院建設安全祈願祭を執り行い、工事が始まりました。土砂の搬出から基礎工事に移り、本年の4月には免震装置を取り付け、以後は次第に建屋工事に移り、次第に骨格が見えてくる予定です。令和5年10月に病院名を「荒尾市立有明医療センター」と改め、地域の中核病院として開院予定です。令和6年11月頃には現建屋を解体し、駐車場に変え、グランドオープンする予定です。新病院の病床数は274床で、急性期は基本、全室個室を特徴としております。新型コロナウイルス感染症などの感染症に対応した病棟（ゾーニング、空調、人工呼吸器に対するパイピング、専用エレベーター等）を備えた新しい病院です。

当院は、「いい病院づくり」をテーマに掲げ、荒尾市唯一の急性期病院、中核病院として多くの病院、医療施設等との病診連携の輪を益々広げていく所存です。城北地域唯一の国指定地域がん診療連携拠点病院、県指定脳卒中急性期拠点医療機関、県指定心筋梗塞等の心血管疾患急性期拠点病院を受けるなど城北地域の急性期医療に携わってまいりました。救急外来のバックには12床のHCUを備え、重症患者の集中的な加療を行っておりましたが、コロナ感染症患者の入院激増時には感染症指定病院の責務を果たすために人手を要するため、8床で運営するなどして地域の脳卒中急性期や心筋梗塞急性期の救急患者に対応しています。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

院長　勝守　高士

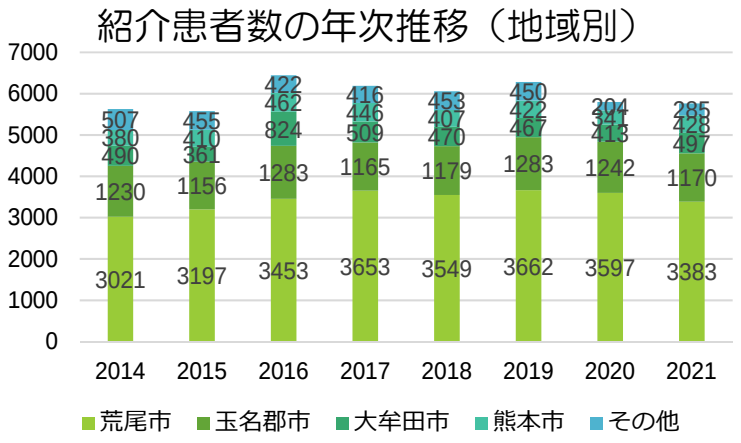
あけましておめでとうございます。

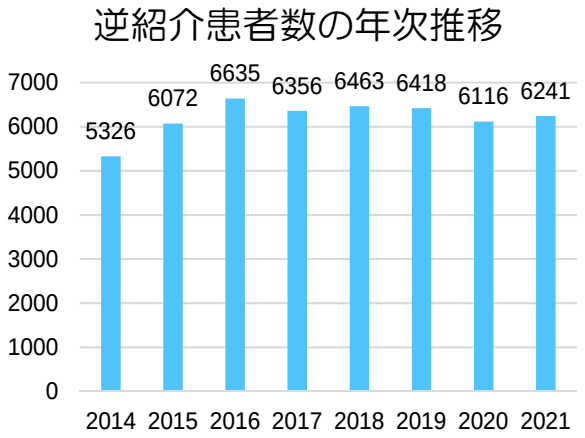
本年はラニーニャの影響で寒い冬を迎えていますが、世界で猛威を振るう新型コロナオミクロン株が遂に日本にも第６波として押し寄せてしまいました。昨年は新型コロナ第3波、第4波、第5波と大波が3回も押し寄せ、当院では、厳重な入院時院内感染予防策を行っていたつもりでしたが、４月に隙間を縫って感染が起こり院内クラスターとなってしまい、診療制限を行うこととなり皆様に大変ご迷惑をおかけしました。現在オミクロン株が第6波となり有明地域にも襲来しています。この有明地域は昨年6月から新型コロナ大波対策として新型コロナ診療中核病院・各医師会・各薬剤師会・各医療施設・有明保健所による合同ＷＥＢ会議を重ね、新型コロナ診療連携を構築してきました。いよいよその成果を発揮する段階になりました。オミクロン株は重症化が少ないと言われていますが、感染力が強く、院内感染を起こしてしまうと恐らく職員にも広がってしまい、医療機能の維持が困難になってしまいます。有明地域住民の健康を守るために有明地域の各医療間の連携を密に行い第６波を乗り切りましょう。

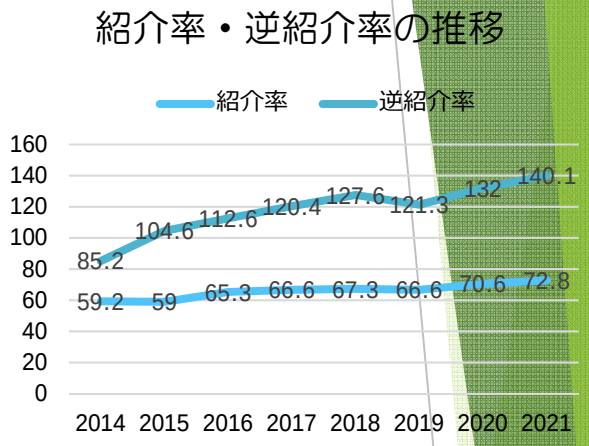
ところで、昨年の紹介・逆紹介をまとめてみました（図参照）。新型コロナ院内感染で４月から５月にかけて診療制限を行わざるを得ませんでしたが制限解除後は通常以上にご紹介いただき、年間では前年までとほぼ同数の患者をご紹介いただきました。逆紹介に関しましては、当院では医師会との役割分担を進め、急性期を過ぎた患者を医師会の先生方に紹介しており、毎年逆紹介患者数・逆紹介率が上昇していますが、2021年も年間の逆紹介率がさらに上昇し140%を超え、熊本県内でもトップクラスの値となりました。今後とも少子高齢化のなか病診連携を進めてまいりたいと思います。

さて、いよいよ開院が1年10ヶ月後に迫ってまいりました新病院建設ですが、工事は順調に進んでいます。現在基礎工事の最終段階で今春免震装置の設置を行います。新病院の名称は「荒尾市立有明医療センター」に決定いたしました。新病院の特徴は①患者目線で設計した利用しやすい外来②ヘリポートを含めて救命率を上げる救急部門配置③新規感染症も制御可能な急性期病室全室個室化④ロボット手術も可能な手術室⑤血管内治療・内視鏡治療の推進⑥免震装置を置き災害拠点病院として災害時に機能可能な防災対策（大地震・豪雨水害対策）の６点です。少子高齢化の中、荒尾市唯一の急性期病院として効率的な医療を構築し、有明地域住民の健康を守ることを目指した設計です。完成を期待していただきたいと思います。

荒尾市民病院は今後とも皆様との連携を深めて、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指していきたいと思いますので、本年も何卒よろしくお願い申し上げます。







新年のご挨拶

事務部長　上田　雅敏

明けましておめでとうございます。

連携先の先生方をはじめ職員の皆様方、施設等の職員の皆様方におかれましては輝かしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、地域の急性期医療並びに新型コロナウイルス感染症の診療に尽力すべきところ、4月から5月にかけ、院内感染（クラスター）が発生し、連携いただいている医療機関や施設の皆様には大変ご心配やご迷惑をおかけしました。改めて皆様方のご協力に深く感謝いたします。

その教訓を活かし、第5波に備え、当院田畑医師と相談支援センターを中心に6月下旬から開催いたしました新型コロナウイルス感染症有明地域会議へのご支援ありがとうございました。回を追うごとに充実した協議ができ、事前対策が取れたことも、ご参加いただいた先生方のご協力のおかげと感謝いたしております。

さて、昨年の終盤は新型コロナウイルス感染者数の減少に伴い、コロナ禍の終息かと期待をいたしましたが、新たな変異株オミクロン株が感染力も強く拡大しているようで、引き続き十分な感染対策の実施が必要と気を引き締めなければいけないと考えております。

当院の重要事業である病院建設の工程は順調に進んでおります。今年は目に見えて地上階の工程が進捗すると思います。ご期待下さい。

最後に、連携先の皆様方にとって本年が幸多き年となりますよう祈念いたしまして新年のご挨拶とさせていただきます。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

新年のご挨拶

看護部長　東　かおる

明けましておめでとうございます。

昨年はwithコロナの中、急性期病院・感染症指定病院の責務を強く再認識した年でした。当院の役割を果たせるよう、「職員全員で取り組む」方針のもと、それぞれの部署が出来る事を割り当て、協力し合いながら現在に至っております。年明けよりオミクロン株による感染拡大、第6波が予断を許さない状況です。当院の病院機能が継続できるように尽力してまいります。

このような中で人口減少・高齢化は着実に進み、医療・看護・介護ニーズの質・量が徐々に変化、マンパワーの制約も一層厳しくなります。

看護部では「患者中心の安全で質の高い看護を提供します」の理念のもと、患者さんの一番身近な存在として、医療と生活の視点をもって入院時より退院を見据え、個別性に応じたケアの提供、早期回復への援助、退院支援に取り組んでおります。

高度化・多様化する医療に対し、専門職業人として一人一人が確かな知識・技術・態度を身に着け、成長していけるよう教育体制や働く環境を整備し、質の高い看護の提供ができるように努力してまいります。

また、感染状況を判断しながら、リモートか対面か対策を講じながら、地域へつなぐ会議・研修を行い、地域看護の質の向上に取り組んでまいります。

今後とも皆様との連携を深め、地域住民の方々が、住み慣れたこの地域で安心して暮らしていけるように地域医療に貢献していきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願いいたします。

看護部長　東
看護部次長　寺本
看護部次長　米川
南病棟１階　下村
中央病棟2階　梅原
中央病棟3階　清國
中央病棟4階　山下
北病棟1階　新美
北病棟2階　中山
北病棟3階　小柳
手術室　ｼﾞｪﾝｷﾝｽﾞ
外来　立石
教育担当　石原
相談支援センター　村本

看護部を支える師長会です。

コロナが収束し、連携懇親会対面でお会いできる日を待っております。

新任医師紹介　　循環器内科　徳永　信行

循環器内科医長

専　　門	循環器内科
出身大学	大分大学
資格/認定	認定内科医　循環器専門医
所属学会	日本内科学会　日本循環器学会
趣　　味	読書

地域の連携医療機関の先生方、関係職員の方々におかれましては、平素より円滑な連携にご協力いただき大変お世話になっております。この度、2021年10月より赴任しました。

出身地は玉名市で大分大学を卒業後、地元の熊本県で初期研修を始めました。熊本市民病院、熊本大学病院で初期研修後は循環器内科に入局し、熊本大学病院、熊本中央病院で勤務してまいりました。

さて当科の診療体制についてですが、急性冠症候群に対する緊急心臓カテーテル検査や徐脈性不整脈に対するペースメーカー植え込み術をはじめとして、末梢動脈疾患や重症下肢虚血に対する血管内治療も行っており、幅広く循環器疾患の診療を行っております。また、超高齢化とともに心不全患者が増加し、心不全パンデミックを迎えている現在、急性非代償性心不全に対する急性期の薬物療法や、外来にて慢性心不全の薬剤調整を行い、心不全再入院の予防に努めております。糖尿病、高血圧症、脂質異常症、高尿酸血症といった動脈硬化性疾患予防にも力を注ぎ、健康寿命の延伸の推進に努めております。

心臓手術の適応になる症例、例えば、冠動脈3枝病変などの冠動脈バイパス術適応症例や重症弁膜症、大動脈疾患、また最近は弁膜症に対するカテーテル治療の適応になる患者様、不整脈に対するカテーテルアブレーションや心臓突然死予防のため植え込み型除細動器の適応になる患者様などは熊本市内の専門医療機関と連携し、対応しております。

有明地域のために精一杯努力して参りますので、循環器疾患でお困りの際は遠慮なくご相談下さい。今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

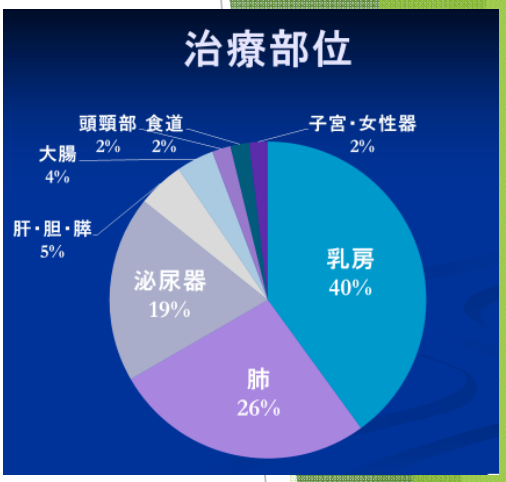
傷病者受け入れ訓練　　放射線技術科　本山　優芽

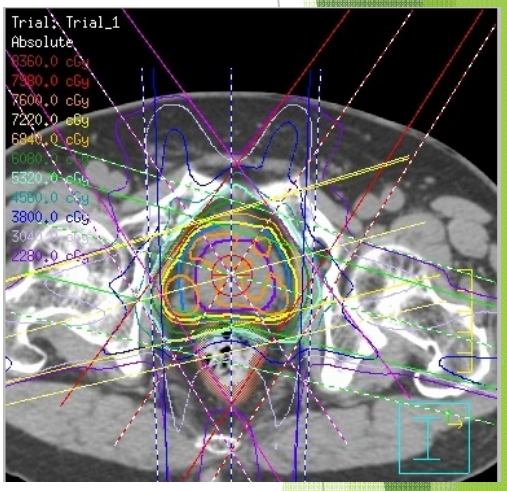
令和3年11月14日（日）に荒尾市民病院災害訓練（傷病者受け入れ訓練）が行われました。今回は長崎県島原市沖で発生した震度6強の地震（荒尾市震度6弱）を想定した訓練でした。また、今回は停電作業との同時進行であったため、本番により近い状態での訓練となりました。

始めは何をしたらいいのかよく理解できておらず、固まってしまいましたが、周りの方から、「発熱者の搬送を想定してPPEを着用した方がいい」などアドバイスをいただき、他にも出来ることはないか考えながら、行動することが出来ました。実際に二次トリアージゾーンに患者さん役の方達がいらっしゃった際の名演技やＤＭＡＴとしてご参加いただいた、くまもと県北病院の方々のご支援もあり、緊張感をもって訓練を行うことが出来ました。実際に災害が発生した時には今回の訓練を活かすことができるように心に留めておきたいです。

放射線治療センターのご紹介

放射線治療センターは地域がん診療連携拠点病院としての機能強化を図り、平成24年4月に新設いたしました。治療件数は年々増加しており2021年は196件に達し、その約7割は連携病院からのご紹介でした。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。治療症例の内訳は乳がんの術後照射や肺がん、前立腺がんが多く、緩和的な治療も行っています。放射線治療センター開設からもうすぐ10年となりますが、この10年で放射線治療全体の高精度化に伴い、当院でも前立腺のIMRT（Intensity Modulated Radiation Therapy：強度変調放射線治療）や肺の定位放射線治療などの治療が可能となりました。今回はこの2つの治療についてご紹介いたします。

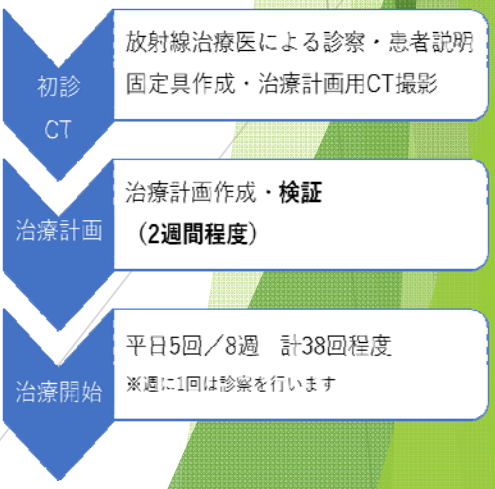




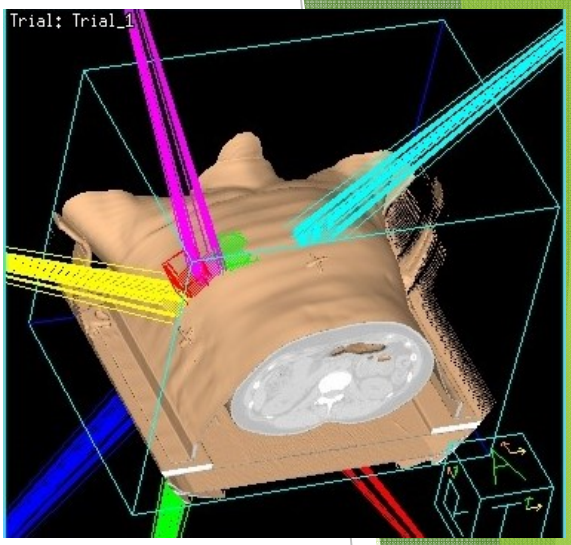
●前立腺IMRT

IMRTは従来の放射線治療に比べ腫瘍の形に適した照射を行う新しい手法です。
前立腺へ線量を集中させ、周辺の正常臓器(直腸や膀胱など)へは線量を低減することで、高い治療効果と副作用のリスク軽減の両立が可能です。

通常の治療は初診・治療計画用CTの撮影から1～2日で開始することがほとんどですが、IMRTは照射するビームを複雑に重ねており、問題なく治療できるか検証するために開始まで2週間程度期間を設けています。1回の治療は15分程度で、ほとんどの方が外来通院で治療を行っています。回数は35～38回程で、約8週間かけて治療します。患者さんには副作用低減と位置精度向上のため、毎回の治療前に飲水による蓄尿と排ガスをお願いしております。

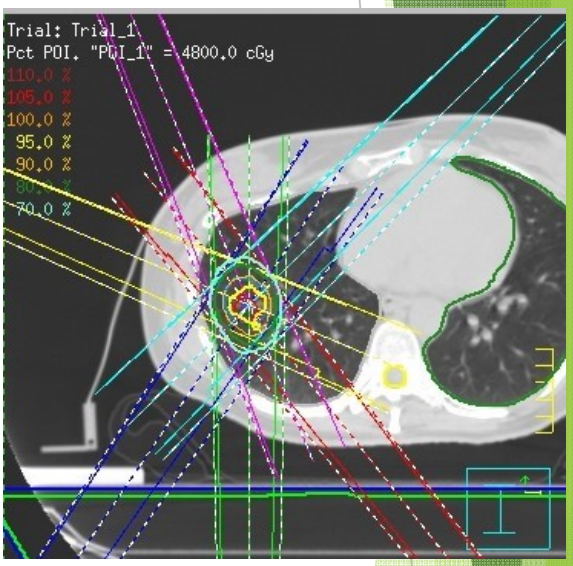


●定位放射線治療



定位放射線治療とは、がん病巣（ターゲット）に対してあらゆる方向から放射線を照射することにより、線量を集中させて治療を行う方法です。これにより、一度に大量の放射線を病巣に対して照射することが可能です。放射線をいわゆるピンポイントに照射する必要があり、固定具を用いて体の動きを抑制して正確に治療を行う必要があります。

当院で行っている肺定位放射線治療は早期肺がんに対してとても有用な局所治療です。早期肺がんの標準的治療は、手術となりますが、ご高齢の患者さんや心肺機能の問題等で手術が出来ない患者さん、また手術を希望されない患者さんに標準的に行われる治療です。一般的な放射線治療は長期間の日数（6～7週間）を要しますが、肺定位放射線治療は先ほども述べたように大線量を一度に照射するため、当院では4回（約1週間）で終了します。治療時間も約30分で、基本的には外来通院で治療を行います。よって、入院の必要はございません。



治療成績においては、様々な論文においても定位放射線治療での局所制御率が高いことが報告されており、安全かつ治療効果の高い治療法であります。

副作用としては放射線肺炎が起こります。ただし、ほとんどの患者さんは無症状で、稀に症状の強い放射線肺炎が起こることが報告されている程度です。

これからも患者さんにとって安全かつやさしい治療の提供が出来るよう、スタッフ一同努めてまいります。

新年のご挨拶

相談支援センター

新年明けましておめでとうございます。

旧年中は大変お世話になりました。

本年も連携室一同地域の皆様のために頑張っていきたいと思います。

本年もよろしくお願いいたします。

《病院理念》

荒尾市民病院は、地域住民の健康の維持・増進に努め、患者中心の安全で質の高い医療の提供を目指します。

《基本方針》

1 地域の信頼に応える基幹病院として最善の医療を提供します。

2 地域連携を進め、地域完結型医療を目指します。

3 患者の人権を尊重し、あたたかい心を持った医療人を育成します。

4 効率的な経営管理を基本とし、健全な経営を目指します。

《患者さんの権利と責務》

1 あなたは、個人としてその人格が尊重される権利があります。

2 あなたは、あなたの病気について、良質な医療を平等に受ける権利があります。

3 あなたは、医療の内容について十分な説明を受け、十分な納得と同意の上で適切な医療を選択し、決定することができる権利があります。

4 あなたは、個人情報とプライバシーが守られる権利があります。

5 あなたは、ご自身のカルテなどの診療記録の開示を求め、その内容や説明を受ける権利があります。

6 良質な医療を実現するため、医師等に患者さんご自身の健康に対する情報を正確に伝える責務があります。

7 病院の規則に従い他者への迷惑にならないように努める責務があります。

8 臨床研修医、看護学生等が指導者の監督のもと研修や実習を行なっていることへの協力をお願いいたします。

荒尾市民病院　地域医療連携だより「小岱」　第44号　2022年1月発行
発　行：荒尾市民病院　相談支援センター　地域医療連携室
連絡先：〒864-0041　熊本県荒尾市荒尾2600
TEL：0968-63-1115（内線536・537）　FAX：0968-62-4543
ﾒｰﾙｱﾄﾞﾚｽ　bsn@hospital.arao.kumamoto.jp

荒尾市民病院
- Arao Municipal Hospital -